

「児童の自尊感情と郷土愛を養い、心豊かにしなやかに生きる力をはぐくむ」

大阪市立御幸森小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

朝鮮半島にルーツをもつ子どもの在籍率が非常に高い本校では、以前より在日外国人教育・多文化共生教育・地域学習に取り組んできた。本校がめざす子ども像は「ユネスコスクールの子どもとしての自覚と誇りを持った子ども」「豊かな心を持った子ども」「民族的アイデンティティを持った子ども」の育成である。そこで、研究テーマを「児童の自尊感情と郷土愛を養い、心豊かにしなやかに生きる力をはぐくむ」と設定し、ユネスコスクールに通う子どもたちに多文化共生の意味や目的を考えさせる。そして、子どもたちが住む地域の良さを考えさせ、共生社会を実現できる子どもを育成することをめざして、研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

2014年にユネスコスクール認定されてから、E S D（持続可能な開発のための教育）の取り組みを進めてきた。「学校における持続可能な開発のための教育（E S D）に関する研究中間報告書」（2012年11月）の中で身につけたい能力・態度のうち、「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する力」「つながりを尊重する力」「進んで参加する態度」の4点が自主性や協調性を養ううえで重要と考えた。この目的を達成するために総合的な学習の取り組みを見直し、それぞれの単元の中で、これらの視点を取り入れて指導を進めてきた。そして、研究テーマに沿い、「自尊感情の育成」「民族的アイデンティティの育成」「コミュニケーション能力の育成」の3つの柱を中心に取り組みを進めた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 自尊感情の育成

「そのまま（ありのまま）でいいよ」というだけでは、自尊感情を育てることは難しい。よりよい自分、なりたい自分を見つけさせるために養っておくべき感情として「自己成就感」が必要である。子どもたちには、「できた」「役立っている」「認められてうれしい」「もっとやってみよう」という意欲につながる感情を育むことが大切である。これが、子どもたちの自尊感情を高めること、「なりたい自分になる」という「自己実現」を達成していくために必要なことと考えた。

視点② 民族的アイデンティティの育成

子どもたちにとって、自分を知り、自分に向き合うことが、これからの社会を生き抜いていくために必要である。韓国・朝鮮の民族的なものと出会うことは、朝鮮半島にルーツをもつ子どもたちにとっては、自分のルーツに関わることに触れ学ぶ機会となり、日本人の子どもたちにとっては異なる文化と出会う窓口となる。

このような出会いや学びが、互いの自国に対する意識を高め、国際社会への関心や自国の文化や歴史に対する関心につながる。また、同時に互いを認め合う態度や多文化共生の意識を育てる基盤となると考えた。

視点③ コミュニケーション能力の育成

本校では、コミュニケーション活動（グループ活動、インタビュー、スピーチなど）の学習を通じて、表現力を発信する場を設けている。子どもたちが感じたこと、疑問に思ったこと、学んだことを発表する場を設定し「コミュニケーション能力の育成」を図っている。またコミュニケーションを図る中で、異なった意見も当然出てくるが、他人の意見を聞き、自分の意見や考え方をよりよいものにしていき、

「おりあいをつける力」を育む活動を行った。

#### 4. 研究の成果と今後の課題

##### (1) 研究の成果

- 多くの児童が「できた」「認められてうれしい」「がんばってよかった」という思いをもち、達成感を感じることができた。
- 自尊感情が高まり、自分を大切に思い、自分のすることに自信をもって活動できる児童が増えてきた。
- 教科や活動の特性を生かしながら、歌や音楽、遊び、発表、プレゼンテーションなどといった様々な方法で、異文化理解・多文化共生につながる取り組みを行った。
- 多くの児童に自分の国の文化を大切にしたいという思いや、様々な国の文化についてもっと知りたいという意識が高まってきた。
- 「地域理解学習」を通して、地域のことを詳しく知ったり、地域の人と関わったりする中で、地域のよさに改めて気づき、多くの児童が新たな親しみや誇りをもつことができた。
- 多くの児童が、自分の考えや思いをもつことができた。
- 自信をもって発表したり、発表することに楽しさを感じたりする児童も増えてきたと感じられた。
- 「地域理解教育」「多文化共生教育」「国際理解教育」の取り組みを進めるにあたって、教職員も様々な研修会に参加したり、教職員間で情報交換をしたりすることができた。

##### (2) 今後の課題

- 分かりやすい文章にまとめたり、異なる意見を受け入れながら考えをまとめたりする力を育成する。
- 意見を交流する機会を多く取り入れる活動を増やす。
- 考えを表現しやすくなるよう語彙を増やしたり、わかりやすい表現方法を知ったりすることができるような機会を模索していく。
- 地域と学校をつなぐ新たな取り組みが必要。
- 今まで続けてきた取り組みを持続させていくためには、指導目的や方法などの伝達についての仕組みをしっかり整備していく必要がある。